

三菱電機の街づくりソリューション

加山 勉*

The Solution Proposal for the Advanced City by Mitsubishi Electric Corporation

Tsutomu Kayama

要 旨

民間による大規模都市開発や地域都市再生といわれる官民共同事業が進められる市場に対して、従来社会インフラの一環となる都市インフラの設備機器を提供してきた三菱電機が、都市や街の付加価値を高めるプラットフォームとなる複合システムを提供することを目的として、街づくりソリューション“AdvanCity^{注1)}”を展開している。

AdvanCityの定義は、2年から3年先に製品として投入できる先進のシステムを中心として、インフラ設備機器の機能を生かすプラットフォームとなるべきシステムで構成するものとした。また、プラットフォームとしての製品・システムは、その基本を光IP (Internet Protocol) ネットワークによって結ばれたデジタル処理による次世代の製品群で構成されるものとしている。

2006年に当社が ICT (Information and Communication Technology) による映像情報インフラ^{注1)}として公表した (注1) “AdvanCity”は、Advanced City (次世代の街) の造語である。

映像情報(エンターテインメントとしての映像表示と、セキュリティとしての監視映像)を発展させつつ、ネットワークインフラをメニューの中核とし、“トレイン&ウォーク”や“タウンセキュリティ”を提唱してきた。さらに交通分野や環境・省エネルギー分野でも、ITS (Intelligent Transport System) 社会を実現する“パーク&ライド”や、低炭素社会を実現する“エコタウン”としてメニューの内容を拡大した。

民間による大規模な都市開発計画が進む中、ビル(群)や街区へのシステム適用を推進してきたが、国の施策でも、総務省の“地域ICT活用モデル構築事業”や、国土交通省の“国土交通分野イノベーション推進大綱”など、ICTによる地域の街づくりが進んでいる。本稿では、民間都市開発や地域再生に共通なプラットフォーム技術として当社が提唱するAdvanCityのメニュー内容について述べる。



トレイン&ウォーク

にぎわいを演出し、街に人の流れを作るために、列車内のトレインビジョンから駅でのデジタルサイネージ、街中のビルボードとしての大型LED (Light Emitting Diode) 表示装置との組み合わせなど、人の流れに合わせた映像配信手法がある。これは、光IPネットワークを利用し、センターからハイビジョン映像を自在に配信するシステムによって実現している。